
どうか大人になる前に

青空子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どうか大人になる前に

【Nコード】

N2437B

【作者名】

青空子

【あらすじ】

忘年会が終わった後の、先生二人の帰り道。

今日は、忘年会だった。

もう何十分か後には、次の年になってしまっている。

俺の隣には、同じ職場の、そして同じ教職員の松永先生がいた。

俺は忘年会が終わった後、一人でそそくさと帰ろうとしたのだが、時間が時間という事もあって、同じ山陽線方面の者同士で帰ってください、と言う事になった。(教頭命令だ)

「雪が振ってきましたよ、どうりで寒いと思った」

彼女の言葉に反応して、上を見た。

「…本当ですね」

彼女はといえば、寒そうに手をさすっている。

「生徒たちは今ごろ、何をしているんでしょうかねー」

赤くなった顔を手で包んで彼女は言った。…生粋の教師だとおもう、この人は。

「…松永先生は、この後は？」

話をそらす為に行ったその台詞は、一体彼女にはどう聞こえただろうか。

にこり。彼女は笑った。

「さあね、旦那も彼氏もないし、家でごろごろバラエティでも見ますよ」

「…成程」

雪は屋根の無いホームにハラハラと積もる。

彼女の細い手はもう、大分赤くなっていた。寒そうにしながら、けれど絶対にこちらを見ようとはしなかった。

「親ももう… 死んでしまったし。特に帰る場所も無いですがらね、私は」

間があいた。開けて、それは、寂しいですねと行って、後悔した。そんな事を言って、俺はどうするつもりだったのだろう。…最低

だ。

それに気がついてか気が付かない振りをするためか、先生はもう一度にこりとした。

目に光を宿したまま、彼女は上を見る。

「不思議ですね。昔は大人になればどこへでも行けると思ってたんですけど。」

今は、『大人』という名前に縛られて、どこへも行けなくなっただ。」

子供達には、大人になる前にそれに気付いて欲しいんですよね。

そう言っつて、彼女は下を向いた。

「…電車が来るまで、コンビニであつたまりますか」

俺はそういって、彼女にカイ口を渡した。

(後書き)

自分では何となく気に入っている作品です。同時に、何も悩まずにさらっと書いた作品でも有ります(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2437b/>

どうか大人になる前に

2011年1月23日02時51分発行